

RANGER ハンドトーチ

取扱説明書

このたびは RANGER ハンドトーチをご購入いただき
ありがとうございます。

【ご使用前に】

ガスと酸素のボンベにはレギュレーターと各専用ホースと
ホースバンドをきっちり接続してご使用ください。
定期的にホースの接続箇所のガス漏れチェックを行ってください。
(ガス漏れチェックは石鹼水などをつけてみる)

【商品仕様】

| | |
|-------|--|
| 方式 | サーフィスミックス |
| ガスタイプ | プロパンガス/天然ガス |
| サイズ | 全長約 30 cm |
| 重量 | 約 198 g |
| 炎サイズ | 約φ19 mm |
| ホース径 | Φ6.0 mm |
| 適正圧力 | プロパンガス：2-6PSI (0.01~0.04MPa) 酸素ガス：5-8PSI (0.03~0.05MPa) |

※アセチレンガスは使用しないでください。

【着火と消火】

1. ガス栓を開きます。
2. ライターなどで点火し、その後酸素を少しずつ開きます。
3. ガスを増やし、酸素を増やし、ガラスの作業に必要な青い色の酸化炎に調整します。
4. 消火時は、まず酸素を閉めて、その後にガスを閉めます。

【火口やノズルのオーバーヒートを抑えるには】

- ガスだけの炎で燃焼させる事を控えてください。
- 小さな炎で燃焼させると、バーナーの火口が赤くなります。
この事が火口やノズルを著しく劣化させる現象ですのでご注意ください。
- 赤い炎の場合は、酸素を加えて完全燃焼の炎にしてください。
- 溶けたガラスがバーナーの火口に接触する事を避けてください。
このバーナーは低い圧力で燃焼できます。下記の設定値が目安です。



【バーナー本体や火口のオーバーヒートを防ぐために】

- ・ガスだけの炎や、あまりにも少量の酸素だけの小さな炎で作業をしないようにしてください。ゆるやかな小さな炎の連続はバーナー火口を赤く加熱させる原因になります。オーバーヒートはバーナーのノズルチューブを劣化させます。

- ・バーナーの火口で赤い炎がでないように酸素を調節してご使用ください。

ガラスとバーナー火口の距離があまりにも近すぎると輻射熱でバーナーの火口がオーバーヒートしますのでご注意ください。

【クリーニングツール】

バーナーの炎が点いている時はクリーニングしないでください。

バーナーが冷めた時にのみご使用ください。

ワイヤーの長さをガスチューブには 25.4mmの深さまで酸素が出てくる孔は 9.5mmの深さまで刺さるように調整してください。

バーナーの火口のガスチューブや酸素孔にワイヤーを抜き差しした後、一瞬ガスと酸素を勢い良く吹き出し管内に残ったススがゴミを排出します。

こうするとバーナーの劣化を防ぎます。

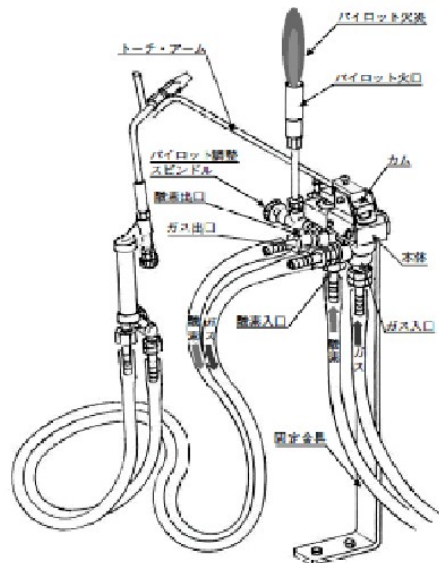
RANGER ハンドトーチと一緒に使うと便利な商品

自動着火消火キット ガスセーバー CH-GS II

本体をテーブルに固定。
パイロット火炎をスピンドルバルブで調整し、常に着火させておきます。一度ハンドトーチの火炎調整をすれば、その後は同じ炎が瞬時に得られます。
着火はトーチアームからハンドバーナーを外し、パイロットに先端を近づけるだけ。消化は逆にトーチアームにバーナーを引っ掛けるだけで自動的にガス、酸素の供給が遮断されます。

炎サイズ：約φ19mm
重量：約1284g
ガス圧：0.02~0.1MPa
酸素圧：0.1~0.7MPa
標準ホース径 酸素：φ8.5mm
標準ホース径ガス：φ10.5mm

※ホース径はご使用サイズに変更可。



ロペックスインターナショナル株式会社
664-0843

兵庫県伊丹市岩屋 1 丁目 1 番 18 号

TEL :072-767-1091

FAX :072-767-1097

<http://www.ropex.com>

contact@ropex.com

ロペックスインターナショナル株式会社